

消防防災ヘリコプターの安全性向上・充実強化に関する検討会（第1回）

議 事 概 要

1 日時：平成29年8月23日（水） 14：00～16：00

2 場所：中央合同庁舎4号館 1208会議室

3 出席者（敬称略）
別紙のとおり

4 次第

（1）開会

- ア 開会挨拶
- イ 委員等紹介
- ウ 開催要綱について
- エ 座長選出

（2）議事

- ア 検討会概要について
- イ 消防防災ヘリコプター安全性向上策の検討について

（3）閉会

5 議事

（1）消防防災ヘリコプターの安全確保の再徹底状況調査及びヒアリング結果

再徹底状況調査及びヒアリングの結果から抽出された各課題及び取組案について、複数の消防防災ヘリコプター保有団体から、同様の問題を感じているとの意見が出された。

2人操縦士体制については、実施に際しての問題点などの意見が出されるとともに、既に2人操縦士体制を採り入れている運航団体及び関係機関からは、その有効性についての意見も多く出され、さらに検討を進める必要性が認められた。

その他の各課題及び対応策については、質疑応答が行われた。

主な意見は、次のとおり。

ア ヒアリング結果について

- ・ 運航していく上で最低限度の基準を設け、現場活動に支障のない範囲で改善していったらと考えている。
- ・ 事務局から挙げられた課題について、現場としても同じように課題を感じている。
- ・ 安全運航は何に関しても最優先にしなければいけないと思っている。

イ 2人操縦体制について

- ・ 権威勾配の解消とCRMの達成という前提が必要でハードルが高いと感じている。
- ・ 2人操縦体制をしているが、メリットの方が多いと思っている。
- ・ 問題点はあるが、役割分担や厳しい任務を行うときには2人のほうがいい。

(2) 消防防災ヘリコプターの安全確保策

シミュレーターの必要性及び有効性について多数の意見があった。また、計器飛行についても多数の意見がだされ、次回以降、これらの項目について検討する必要性が認められた。

主な意見は、次のとおり。

ア シミュレーターについて

- ・ 緊急操作訓練など実機ではできない訓練を実施でき、緊急措置能力の向上、技量の維持を行っている。
- ・ 非常に有益で危機管理を身につけるという観点で活用している。

イ 計器飛行について

- ・ 計器飛行証明は安全性の向上には寄与するが、離島を抱えていないところではあまり意味がないのではと思っている。
- ・ 緊急援助隊の出動という枠組みのときに遠距離で飛行することがあり、悪天候時でも災害地に至るために計器飛行証明の取得が欠かせないと判断して取得している。
- ・ 広域応援、離島、色々な事態対処という観点から全員が取得するように奨励している。

(3) 長野県消防防災ヘリコプター事故に伴う安全対策の検討

ヘリコプター動態管理システムの活用により、各運航団体が、自団体のヘリコプターの位置情報を常時、正確に把握することが、安全管理上、有効であるという認識で一致した。

主な意見は、次のとおり。

※ 常時起動及び通信間隔を 30 秒以内に設定し、ヘリコプター動態管理システムの運用の統一を図る通知を 9 月中に発出。

ア ヘリコプター動態管理システムの活用について

- ・ 安全対策の 1 つとして、何かあったときに迅速に対応することやデブリーフィング等では非常に有効だと思う。
- ・ 通信費の問題はあるが、悪天候時に航空隊基地から指示等も出せるので有効なシステムだと思う。
- ・ 航空波の無線で届かないところでも動態管理システムを見れば確認でき、事業者の責務として機体の把握はしておかなければいけないと考えている。

(4) 他機関における安全対策の取組み

ヒヤリ・ハット事例共有については、事例の収集、秘匿性等の観点から全国航空消防防災協議会単独で実施すべきとの意見が多数であった。また、ホームページに掲載するだけでなく、運航団体へのフィードバックが重要であるなどの意見が出された。今後、運用方法等について全国航空消防防災協議会等と調整を行っていく必要がある。

CRM研修の導入については、既に実施している関係機関から研修手法などについての意見が出された。これらを参考に、実施要領等の詳細について、全国航空消防防災協議会等と調整を行っていく必要がある。

主な意見は、次のとおり。

ア ヒヤリ・ハット事例共有について

- ・ 全国航空消防防災協議会で取りまとめられたほうが、スムーズなのだろうと思う。
- ・ ホームページをやりました、見てくださいというやり方は、機能しないので見られ

る形にすることは重要だが、どこか何かの機会でだれかが共有するというアクションを起こす必要がある。

- どの程度まで報告すべきかなどある程度の基準もあったほうが事例を出しやすいのかと思う。
- ヒヤリ・ハットを集めるのは第1段階で、評価・運用が大変であり、いかに現場にフィードバックするかが大事。

イ CRM研修について

- 過去の事故から、必要だと考えて取り入れている。現在もCRMとさらにもう1つ発展をさせたヒューマンファクターズという観点からも飛行安全に取り組んでいる。
- 研修に要員を参加させ、その要員が勉強して、部隊に戻り、他の操縦者等に徹底する手法を行っている。

消防防災ヘリコプターの安全性向上・充実強化に関する検討会
出席者名簿

【座長】

小林 恭一 東京理科大学 総合研究院 教授

【委員】

上井 孝文 大阪市消防局 警防部 警防課 航空隊長

宇田川 雅之 東邦航空株式会社 代表取締役社長

神野 正美 中日本航空株式会社 取締役 航空事業副本部長

萱津 雅弘 (代理：林田 淳司) 東京消防庁 装備部 航空隊 参事兼航空隊長

小林 啓二 宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 主任研究開発員 博士 (工学)

齋藤 守 (代理：渡邊 幹太) 横浜市消防局 横浜ヘリポート 航空科 航空科長

鈴木 徳義 岐阜県 防災航空隊 航空安全管理監

武井 裕之 埼玉県 防災航空隊 防災航空センター所長

平本 隆 帝京大学 理工学部 航空宇宙工学科 教授

広瀬 優 富山県 消防防災航空隊 航空隊長

【オブザーバー】

梅澤 大輔 国土交通省 航空局 安全部 運航安全課 乗員政策室長

笠島 博海 海上保安庁 警備救難部 管理課 航空業務管理室 安全運航対策官

倉岡 土嘉 防衛省 航空幕僚監部 副監察官 3等空佐

小森 武彦 警察庁 生活安全局 地域課 課長補佐

高村 知孝 全国航空消防防災協議会 事務局長

山村 智則 防衛省 海上幕僚監部 運用支援課 2等海佐

【事務局】

消防庁 国民保護・防災部 防災課 広域応援室